

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス事業所 みのりの家		公表日		令和8年 2月 26日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・個室が5部屋あり、各児童の特性や状況、また活動の内容に応じて使い分けています。 ・うち1部屋を課題専用室として、間仕切りした机・椅子を7セット設置して落ち着いて課題や作業ができるようにしています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		5	0	・各営業日の利用児童の数に応じてアルバイトの職員を配置するなどをして支援を手厚くしています。	・利用状況により職員配置を勘案する。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	0	・事業所が2階にあるため、ご利用者様には説明をさせていただいております。	・2階まで階段で上がる必要があるため、段差などにも配慮しながら支援を行っています。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	0	・感染症対策として安全衛生にも努め、活動によっては広い部屋を使うなどを行っています。	・個室が多く広々としたスペースではないが、個室を活かして刺激が少なく落ち着いた空間をつくっています。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	0	・自分で選択して過ごせるようになっています。 ・特性や気持ちの切り替えができないときには個室に誘導し過ごしていただけるように配慮しています。	・個室が3つあり、特定の人の部屋だという認識があるため、そこを排除し誰でも使える部屋だと思ってもらえるようにしていきたいです。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	・目標管理・成果シートを用いて自身の業務に目標を立て、それについて管理者と面談を行い、業務改善に努めている。 ・業務振り返りチェックシートを使って日々の業務に関しての振り返りを行っている。	・業務改善については大きな課題であり、今後、厚生労働省の手引きやガイドラインを参考にPDCAを意識しながら取り組んでいく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・集計結果がでた時点で内容等を職員に周知をしている。 ・保護者との面談や、保護者向け評価表等を活用し意向の把握に努めています。いただいたご意見やご意向は最大限尊重して改善に取り組んでいます。	・保護者からのご意見を反映できるように、日々職員間で話し合いを進めていますが、全部が反映できていないところを含め、今後も改善に向けて進めていきたいです。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	・日々のミーティング及び職員会議などで意見交換をしている。	・業務改善についての会議が不十分と感じているので、機会を設けるのが課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	-	-	・第三者による外部評価は実施していません。	・第三者による外部評価は実施していません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・研修計画を策定し外部研修、法人内研修に積極的に参加している。	・勤務シフトの調整。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・支援プログラムに基づいて、個別支援計画の作成をしています。また、その計画に沿った支援を行っています。	・支援プログラムの見直しを行い改善に努めていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	・保護者と年2回面談をさせていただくほか、日々の連絡帳や電話連絡によりニーズ、課題を把握しております。 ・職員間で継続的に児童の状況を把握し、上記保護者のご意向も踏まえ、ケース会議で検討したうえでサービス計画を作成しています。	・個々のニーズを検討したうえで今後も支援計画を作成していきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・計画を作るときには支援者会議も行い児発管、保育士、児童指導員で話し合いをしています。その結果を支援計画にも反映させています。	・日々の支援の中でも共通理解を深めることで、さらなる利用者への支援の改善を目指していきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	・毎日支援前にはミーティングを行い、計画とその時の状況や環境や前回の様子など、共通認識で支援に向かえるように、情報共有をしてから支援に入っている。	・支援内容についても常に職員間で確認し合い、より良い支援が支援が行えるようにしていきます。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	1	・児発管が日々の記録や支援者からの情報共有、保護者からの聞き取りなど様々な多角的な視点をもって、計画作成時のアセスメントをしています。	・現在、特定のアセスメントツールは使用していません。 ・今後、当事業所の児童にとって、最適なツールは何かを見極め、導入に向けた検討をしております。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	1	・5領域を全利用者の支援内容に盛り込んで計画作成をしています。その他の家族支援や移行支援などは、家族の意向や年齢等に合わせ設定しています。	・多様な視点からの意見を盛り込み計画を作成していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	3	・児発管・保育士・児童指導員での話し合いが日々行い職員間で相談をしながら立案しています。	・活動がマンネリ化しないよう職員で支援内容の見直しや振り返りを行っています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	1	・計画的な実施に努め、季節などの行事に合わせた内容も取り入れ変化のある楽しめる活動プログラムを立てています。	・今後も様々な体験・経験できる活動に取り組みながら更なる成長を促していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	1	3	・児童の発達状況、年齢、特性に合わせた個別活動、集団活動を設定しています。	・今後も専門性を高めて個別活動と集団活動の充実を図り、より良いサービス提供ができるようにしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	・朝礼・昼礼で当日の支援の注意点や重点事項を伝え確認を行っています。	・今後も、児発管が中心となって保育士、児童指導員で支援の内容の確認や情報共有の場としていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3	・支援後の記録をする際に、職員間で振り返りをしながら、次回の支援に向けての情報共有をしています。	・支援終了後にミーティングは行っていませんが、情報共有する必要のあることなどは、次の日の昼礼に振り返りを行い周知しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	・支援記録は支援計画に基づき、その実施状況を記載するようにしています。 ・加えて、日々の様子、自立課題や作業の実施結果も記録し支援の検証・改善につなげています。	・日々の記録を基に、支援内容の振り返りや改善策を考えることも必要だと思っています。職員間でも記録の方法に関しては統一して後に見直しやすいように努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	2	・毎月ケース会議を行い、サービス計画の目標の進捗状況や取組が適切であったか、見直すべき点はないか確認しています。 ・この積み重ねをもとに、少なくとも半年に一回はモニタリングを行い、サービス計画の見直しを行っています。	・半年に一回のモニタリングをしているが、その間に話し合いを行っているため、必要に応じて対応していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	2	1	・4つの基本活動を組み合わせ支援を行っています。	・地域交流活動は、性質上土曜日又は長期休業期間中を中心に行っています。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	・子どもたち自身が考える、決める、実践するなどができるように活動を考えて支援をしています。	・自己決定をする力を伸ばせる機会をさらに増やし、自らの判断する力を養えるような活動を取り入れていきたいと思っております。 ・職員が利用者の自己決定をする機会を確保し、それが妨げられないよう努めていきます。	
関係機関や保護者	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・主として児童発達支援管理責任者が参加しています。	・今後も児発管だけでなく、職員間で会議の内容や状況を把握できるようにしていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	・利用者を取り巻く様々な関係機関と連携が取れるように、相談員を主軸にしています。必要があれば関係者会議を行い、情報共有をしています。	・全利用者が関係者とつながり、連携が取れているわけではないので、今後は利用者全体が関係者とつながり、連携した体制がととのっていくようにしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	・学校からのスクールメールに登録し、情報を得られるようにしている。 ・保護者からも下校時間や行事、実習などの連絡調整はしてもらえるようお願いをしている。	・送迎時等に学校教職員との情報共有を行うように努めています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	2	・主として中高生を対象としているため、小学部の時に在籍していた施設に情報共有をしています。	・小学部の時に在籍していた施設からの情報を共有してもらえるようにしていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	0	・卒業後の施設からの要望で支援会議を開くことがあります。学齢期の様子など細かく引継ぎをし就労先の支援員がスムーズに支援に入れるように情報を提供している。	・スムーズに移行できるよう情報共有に努めていきます。

との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	2	・発達障がい支援センター主催の研修を受ける機会を設けている。	・今後も研修に参加し、連携を図りながら必要に応じて助言をもらって支援をしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	0	5	・放課後児童クラブや児童館との交流はしていませんが、地域の子供が参加しているイベントへの参加などしています。	・平日は時間帯が難しいと思われるため、長期休暇のところで計画を考えていきたいです。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	0	3	・自立支援協議会の参加はしていません。	・自立支援協議会の参加はしていません。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	・送迎、連絡帳、面談などを通じて保護者への共通理解を図っている。	・保護者との共通理解、職員間の共通理解を促していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	・保護者研修の場を設けている。 ・夏休み期間に保護者参観日を開催し、日々の子どもの様子を見たり職員と情報共有をしている。	・ペアレントトレーニングは実施していないが、家族が参加できる研修の機会を確保していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	・支援の内容については丁寧に説明させていただいていると思います。 ・利用者負担等については、契約時に説明をしています。	・運営規程や利用者負担金については、時間の都合上説明が不十分な点があると思います。今後は面談等の場で説明することも行っていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・面談会を開催したり、意向調査書に本人の意向・保護者の意向を記入していただいている。	・面談や意向調査だけでなく、日々の保護者との話から様々なニーズを把握して、計画作成に活かします。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	0	・児発管が計画の説明を行い、保護者の同意を得ています。 保護者都合で直接的に説明ができない場合は、電話連絡で説明し同意を得ている。	・面談や意向確認を行いながら適切に計画作成を行い丁寧な説明を心がけていきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0	・保護者からのご相談に対しては丁寧に対応するようにしています。ご相談内容に応じて、相談支援専門員や学校の先生等と連携を図ります。	・保護者に寄り添う姿勢を大切に、協力していきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5	・保護者同士やきょうだい同士で交流する機会は設けていない。 ・きょうだいに対しては面談等により受容やかかわり方への支援を行っている。	・今後も保護者交流会の機会を設け、家族同士で話ができるような場を提供していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	・苦情解決担当者・責任者を配置し、また第三者委員を選任して、苦情解決体制を掲示、広報紙、口頭で案内しています。 ・さらに、苦情にはいらないまでも保護者から要望やご意見をいただいたときは事業所内で共有するようにしています。	・今後も苦情解決の研修に参加するなどをして、より質の高いサービス提供が行えるような事業所を目指していきたいと思っています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1	・年に2回広報誌を発行し、活動の様子をインスタグラムで発信しています。	・SNS等の活用を継続して実施していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・個人情報同意書により取り扱いは十分留意している。	・事業所としての個人情報保護マニュアルを作成する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・子どもたちには、絵カードやスケジュールなど視覚的にわかりやすい方法を用いています。 ・保護者に対しては活動内容等を書面で配布する等、正しく伝えるように努めています。	・より意思の疎通や情報伝達がしやすい方法を模索し、迅速な対応ができるようにしていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	・定期的に事業所周辺の清掃を行っています。地域の高齢者の寄り合い場所として事業所を使用させていただくこともあります。	・今年度は12月にイルミネーションを取り付け、地域住民から感謝の言葉もいただきました。今後も地域に根差した事業運営に努めます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・防犯マニュアル、感染症マニュアル及び非常災害時の対応マニュアルを作成しています。感染症・自然災害の業務継続計画も作成しています。	・今後は子どもや保護者に対して説明の機会を設けていきたいと考えています。また広報誌やSNS等でも訓練の様子を発信していきます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・消防訓練(避難・消火・通報)及び業務継続計画に基づき訓練を実施しています。	・訓練を行っていくとともに、現実に即した業務継続計画の見直しも課題です。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0	・保護者とのやり取りでてんかんや服薬に関する重点事項や注意事項については話し合っ情報共有をしています。	・職員間でも事前に確認をし、てんかん発作の利用者への対応も情報共有し対応をしています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	・利用開始に当たって、保護者からアレルギーに関する情報を確認し適切に対応しています。	・現在、食物アレルギーのある利用者はいませんが、利用が始まる場合には、適切な情報を確認し、対応をしていきます。

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・安全計画に基づき必要な研修・訓練を実施しています。	・引き続き児童の安全を優先にするため、点検をおこたらず、訓練も実施していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・安全計画に基づき、施設・設備・園外環境の安全点検を実施しています。安全計画は事業所窓口で閲覧できるよう備え付けています。	・公用車安全装置による不具合が起きた場合の対応策が課題となっています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・事故防止委員会を設置し事故・ひやりはつと事例を検証しています。	・職員会で事例の共有・改善策の徹底を図っています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・年2回、振り返りチェックシートにより各職員が自身の支援の状況を振り返る機会を設けています。又、法人内研修及び外部研修に参加しています。	・毎年度、法人の虐待防止研修をはじめ、研修や講習には積極的に参加し理解を深めています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	2	・法人内障害者虐待防止・身体拘束適正化検討委員会を設置し会議を開催している。	・該当の児童がいないので特別な対応は行っていません。 ・但し、・身体拘束が予想されるような利用者がいた場合には計画に記載することとしている。